

檜山節という唄の中で語られる
小さくて貧しい村の営み。

そこには日本人が
とつくに忘れてしまった豊かさがあった。

〈檜山節〉を考える——
それが「素劇 檜山節考」です

劇団 1980
ICHIKYU-HACHIMARU

原作 深沢七郎

構成・演出 関矢幸雄

すげき

素劇

檜山節考

尾北演劇鑑賞会第216回例会 2026年9月20日(日)午後3時30分開場 4時開演

会場：江南市民文化会館大ホール 入会金：2,000円 会費：月額2,900円（学生2,100円）

申込先：江南市高屋町西町98-105 尾北演劇鑑賞会 TEL：0587-55-9346 FAX：55-9356

この会は、非営利の会員制演劇鑑賞団体です。ただいま会員募集中！生の舞台の感動を私たちと一緒にしませんか。

すげき
素劇

原作 深沢七郎
構成・演出 関矢幸雄

檜山節考

演出補◎河本瑞貴／監修◎花輪 充
美術◎山本隆世／音響◎齋藤美佐男／照明◎増子顕一
衣裳◎上野裕子
音楽◎後藤まさる／歌唱指導◎平岩佐和子

1956年（昭和31）、雑誌中央公論発表とともに文壇に衝撃をもたらし、文芸評論家・正宗白鳥が“人生永遠の書”と評した深沢七郎の小説『檜山節考』。

これまで2度にわたって映画化されたこの原作を“素劇”で舞台化しました。

素劇（すげき）は、演出家・関矢幸雄が提唱する表現様式。リアルな装置や修飾的な衣裳・メイクはいっさいなく、素朴・単純ながらも豊かな遊び心で場面を作り出しながら、観客の想像力を喚起することによって物語の真意（ドラマ）を表現していく関矢演出独自の手法です。

山と山が連なって、どこまでも山ばかり。その山間にある村――

へ檜山祭りが三度来りやよ 栗の種から花が咲く

小さく貧しく、食べ物が乏しいという根源的な苦しさの中で、人間はどう生まれ、どう生き、どう死ぬのか？ 原作『檜山節考』が問いかけるヒトが生きる意味、生きとし生けるものの命のつながりを、“素劇”ならではの魅力で描き出していきます。

構成・演出◎関矢幸雄

1926年生まれ。舞踊家として創造活動を開始し、創作舞踊『地霊』（1952）、『黒い沼』（'54）、『山ふところ』（'60）で文部大臣賞など数々の芸術賞を受賞。63年からは日本初演のプロードウェイミュージカルのステージングを担い、『マイフェアレディ』『風とともに去りぬ』『屋根の上のパイリオン弾き』など数々のロングラン作品を手掛け、その後児童演劇の世界に移り『ぼくらのロングマーチ』（'77/芸術祭優秀賞）、『西遊記』（'84/児童福祉文化賞）など、児童演劇という枠を越えた優れた舞台を次々と創り出した。

その演劇芸術追求の中で編み出されたのが“素劇様式”であり、国内はもとより、カナダ、中国、韓国、ブラジルなどでも上演され、文化・言語・民族の垣根を超えた人間普遍のドラマとして絶賛され、世界的評価を得た。その功績が認められ、91年春に紫綬褒章、96年に勲三等旭日小賞を叙勲した。

2021年3月死去、享年95歳。

劇団1980（イチキユウハチマル）

映画監督・今村昌平が創立した横浜放送映画専門学校（現：日本映画大学）を母胎として、演劇科卒業生たちが劇作演出家・藤田傳の元に集まり、文字通り1980年に発足。

藤田傳がこだわる「日本」と「日本人」を探る演劇作品を創り続け、「老人三部作」「ツイテナイ日本人・三部作」「日本土民考・三部作」等の作品群を発表。93年には藤田の盟友である演出家・関矢幸雄を招き、「素劇 あゝ東京行進曲」を発表。演劇鑑賞会等を通じ、全国各地で公演を行っている。

また、現在ではヨーロッパ三大演劇祭になったルーマニアのシビウ国際演劇祭に、95年日本の劇団として最初に参加し、その後もヨーロッパ公演9度、韓国公演2度、ブラジル南米公演を2度行うなど、日本の劇団としては最も意欲的・先駆的に現代日本を照射した作品を海外で発表しながら、芸術交流を図っている。

一面の黒と白い線だけの空間にあの山の全景をみたような気がする

不思議だ
総天然色の画がみえる！

実に面白かった
高い芸術性に拍手

素劇をはじめて観て、本当におもしろかった
場面が思い浮かばれて
日本の里山の風景を感じた

「檜山節考」は
その世界を素劇ならではの
素朴だが心に響く舞台で伝えきった
民謡の調べが胸を突く

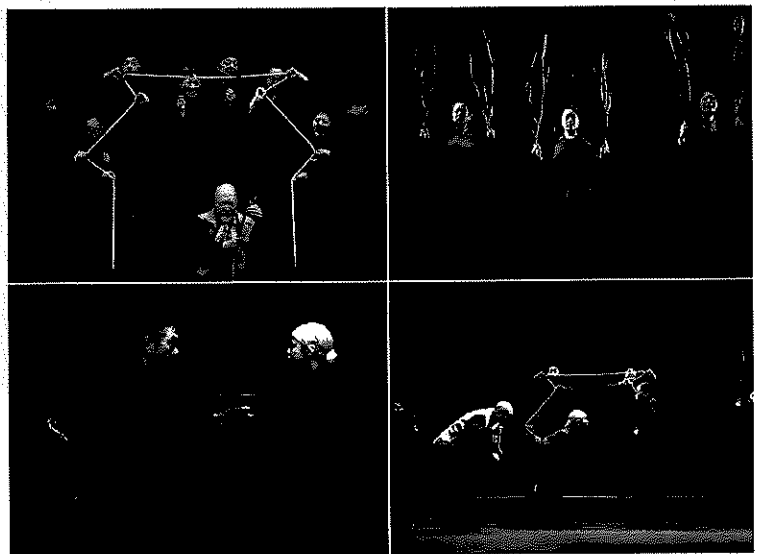
おそろしかった。でも、すごく感動した

貧しかった昔の厳しい現実
私達後世の人間に多くのことを教えている

殆ど無から有を作る舞台造形の手法は
スピーディーな場面転換に効果大
シンプルな衣裳もまた
役者の演技を却って引き立たせている

檜山節考の辛くて寒々しいイメージが
がらっと変わった
厳しさの中にこそ
人間の暖かさ優しさをより深く感じた

（初演アンケートより）



写真：宮内勝

〒156-0043 東京都世田谷区松原3-40-5 泉ハイツ102
TEL:03-3321-2835(代)/ FAX:03-3321-9092
E-mail: info@gekidan1980.com
1980HP: http://www.gekidan1980.com/
Facebook/Twitter: @gekidan1980